

○トークセッション

ゲスト・スピーカー

林和雄氏(白子町長)

大谷覚子氏(白子茂原商工会議所 常議員)

山内みどり氏(茂原商工会議所女性会会長)

宮田修氏(宮司、元NHKアナウンサー)

コメンテーター 山口靖氏

コーディネーター 大柿恵司氏(NPO法人長生地域まちづくりステーション)

司会 志田(一宮)



- ・宮田 2年前までNHKでアナウンサー。田舎暮らしがしたくて長南町に来た。人間の根元的な暮らし。日本人の暮らしは高度化して細分化していたが土から恵みをいただく生活が定年後の生活。宮司を頼まれたりモンゴルの子どもたちのボランティアや、別の会社の役員を頼まれたりで忙しくしている。
- ・大谷 商売は食品の卸売業をさせていただいている。
- ・山内 女性会は女性経営者と補佐役として活躍されている女性で構成されていて会員数は44名。4つの委員会で活動している。具体的には七夕祭り参加、先進地視察、講演会実施、ボランティア活動も。
- ・林 今日のテーマに関心を持った。できないということをいう人は多い。特に役所が多いのではないかと。国や県も多いのではないかと。簡単に金がないでだめになってしまうことはよくあるが、何とかしないといけない。一緒に学ばせていただく。
- ・山口 皆さんからいろいろ学んで方策を語っていただければ。
- ・大柿 こうなればいいな、というイメージは共通していても、でもできない。予算がないとできないで終わってしまうが全国で元気のいいところは乗り越えてやっている。ヒントを得られれば。いろいろなジャンルで「できる！」人が現れないといけないが、今日は大谷さんや山内さんは観光に関わられているので最初は観光でお話を進めていきたい。山内さんは国体のバレーボールのお手伝いをされたということだが。
- ・山内 ボランティアの一環として昨年の国体の大会運営を花植え、水やり、清掃などに参加。大会開催後に役員会の会場で聞かれたのは、来場者から観光名所やおみやげはないかというお声があった。茂原市内での観光名所やおみやげはご案内できなかった。今後はおみやげを含めて観光を活性化させていかなければ町全体の活性化は図れないのではないかとという声があった。
- ・大柿 じゃあおみやげを誰が先頭にたってやっていくのか。そういう流れというのは今までもあったが、あと2年ちょっとで圏央道ができる。おみやげやB級グルメなどもやっていかないと。
- ・山内 全国各地で町おこしが行われている。この近隣でも、観光誘致への取り組みが活発に行われている。房総の勝浦市では商工会青年部が中心になって勝浦タンタン麺が取り組まれている。道の駅やコンビニやサービスエリアでも販売されている。茂原も早急に観光に取り組みないといけない。ゆるキャラやB級グルメも知恵を出し合えば。女性会だけでは厳しい。地域をあげてコラボレーションを図っていかな

いと。いろいろなグループの方がいる。知恵を出し合っていけば実現可能では。

- ・大柿 大谷さんは茂原七夕祭りにお力を入れていらっしゃる。昨年は85万人いらっしゃったが露天商がずらっと並ぶだけだとの声も。ご苦勞があればお話を聞かせていただければ。
- ・大谷 茂原七夕祭りは商工会議所に入会していて、今年で25年くらい手伝いをしている。地域を愛しているから何とかしていかないと、という思いで57回続いている。今やめてしまったらまた立ち上げるには大変な労力があるので何とか続けていきたい。そんななかで思うことは大変お金がかかる。市からの助成金の倍くらいは会員などから寄付をいただいでまかなっている。景気がよい時代はよかったがこんな時代には集めるのが大変。町おこしという声が聞かれる中で町おこしの最たるものではないか。七夕は日本の三大祭りといわれているが、いろいろな地域が自分のところがそうだと思っている地域が多い。商業者が夏枯れ対策で始めたことだが、当初はその中で利益が増えたのだと思う。お客さんを楽しませることには変わりはないが、だんだん露天商の皆さんの稼ぎが大きくなり、町の方がどれくらい商売をされているのか。利益がとれないといやになってしまう。利益がとれて楽しくってという祭りにしていきたい。祭りを通して地域の絆や文化、歴史、若い人たちが帰るふるさとのことがあることはとっても大事なことでないか。この年になっても七夕はなかなか忘れられない。思い出の地に七夕が一役買えれば大変うれしい。
- ・大柿 国体にはいろいろな競技があるが、この辺ではたいていの人が白子町に宿泊した。白子町は一人勝ちかという話があるが、白子町がこれまでやってきたことが実ってきたのか。
- ・林 白子町ではソフトテニスとホッケーの会場地になった。経済効果という話があったが、こういう公式の大会をやることによってスポーツの町としてのグレードアップが図れればいいのではないか。テニスだけでも大きな大会が20回くらい開催されている。桜祭りやチューリップ祭り、タマネギ祭りなどがある。経済効果の計算は余りすべきではなく、何人の人たちが楽しみ満足納得したのかが先ではないか。しかし経済がついてこなければ長持ちしない。特色のある土産もないと。知恵を絞っている。白子のブイヤベースも開発をしている。おいしさという点では評価があるが地元の人がまだ食べていない。土産物としては芋で作った焼酎や米で作ったチップスもお菓子屋さんと連携して作り出したりしている。販売はこれからだが。直接ものを売る意味ではタマネギ。販売金額ではタマネギ狩りに来て買って行く人たちが落とすお金の方が何倍もあるのではないか。やはり地域の人たちが知恵を絞って取り組んでいることは評価されるのではないか。
- ・大柿 白子町はテニスの町が相乗効果を生んでお客さん呼び、いろいろな効果が出ているが。茂原の七夕は関東近県の人には知っていても別のシーズンに来てもらって楽しんでもらうとか、年間循環していくようになればいいと思うが、夏の3日間でおしまいではもったいない。
- ・大谷 商工会議所の会頭が11月に16年ぶりくらいに変わった。3つの目標の1つがおみやげがない、まず茂原の名物を作ってみようじゃないか。会議所、茂原卸団地も協力してどんなものができるかまだこれから。茂原の名物を作っていこうとしている。市役所の所に川が流れていてかつて整備してきれいになっているが、これを「天の川」にネーミングを変えようじゃないか、という意見もあり、県に問い合わせをしたら通称なら差し支えないだろう、ということだった。川を通して企画をしていきたい。知恵を絞って継続していきたい。とりあえず茂原名物を作ろうということでお菓子を作るならいろいろなところに声をかけて皆で作っていこうという計画を描いているようだ。
- ・大柿 宮田さんはNHKに入られてお若い頃小樽にいらっしゃったということだが。そのあたりの所を。
- ・宮田 NHKで仕事をしているあいだに47都道府県全て泊まっている。新人時代に小樽の天狗山のスキー選手権の取材にいったことがある。私の目で見えた小樽の町は堂々たる衰退した町。町の中に立派な建物が建っているが、人がいない。ところが最近、観光で行ったら実に活気にあふれている。

今日のテーマに関しては小樽のまねをしても仕方がないと思う。

私は富里の生まれ。いろいろな所を見てきた結果ここを終の棲家にした。

いろいろな人から何でこんな所に来たのかと言われた。住んでいる人がいい町だと思わないと。

東京の都心に住んでいる人は朝とったトマトは食べられない。そういうことに地元の皆さんが気づいて売っていくことをやっていくといいのではないかな。

- ・大柿 これから人口を増やすには、よそから来た人を増やさないと。
そういう人たちの中にもできるに変えられる人がいるのでは。地元の高校を出て大学に行ってすごい仕事を実践している人もいるであろうから、そういう人の力も使っていった方がいいのではないかな。
- ・宮田 私も富里だが僕から見ると同じ千葉県人。日本で一つでいいんじゃないかな。
これから見ていかないといけないのは、日本は絶対に年寄りが増える。
世界的に例のない超高齢社会になる。それに向けてこの地域を活かしたやり方がある気がする。
都会から年寄りを呼ぶのがいいんじゃないかな。年金生活者はクビにならないのでそれをターゲットにすればいい。
- ・大柿 林町長さんはいろいろなアイデアを出される時に、どういう人に相談したいと思われるか。
- ・林 一人二人が人材ということではどうなのか。若い人たちがいろいろなアイデアを持っているのを丁寧に聞いてあげることが必要じゃないかな。10人中9人がだめだよということでも1割の可能性を確かめることが必要では。
物事を進めるには知恵を出す人、汗をかく人、迷惑な人もいるがそういう人をひとまとめにしていかないと進まない。チャレンジ精神が欠けているのか。
今の若い人はなかなか提案型ではない。仕事をやらせるとそつなくこなすが、奇抜なアイデアを持っていても提案してくれないことが見受けられる。指示待ち族。それを何とかしなければいけない。みんながしていけば少しは変わっていくのではないかな。
そういうことをしていくことで解決の糸口が見えていくのではないかな。
- ・大柿 今日、皆さんのお話を聞かれてお感じになられたことや、全国を回っていらっしゃったことでのアドバイスがあればお願いしたい。
- ・山口 宮田さんがおっしゃられた高齢者をターゲットにするというのが大切な視点だと思う。
1ヶ月に1回くらいはお話をさせていただいているが、岐阜県に恵那というまちがあり、道の駅がある。
違う用事で昼食を食べに寄った。ものすごく繁盛している。水曜日の昼に車が並んでいる。
だいたい60から65くらいの女性が皆さん集って食事をされている。
山菜料理を売りにしている店。山菜料理を出して帰りに野菜を積み込んで帰っていく。
高田馬場に住んでいるが、池袋に買い物に行くが、最近は60歳くらいの夫婦の方がいっぱいいる。
そういう方々は行くところを探しているのではないかな。恵那では水曜日の昼間にいっぱいいて買い物や食事をしている。
そういう人たちをターゲットにしたものがあるのではないかな。
たぶん活性化しようとか、そういうところからは入っていないのではないかな。
地場でとれたものを、その土地でどうやったらうまく生かせるかということから入っているのではないかな。
恵那と名古屋のような感じでとらえられるのではないかな。
- ・大柿 自ら面白がってやる人が増えて、たくさん現れてこないと、いろいろな組織の中で会議をやってもうまく行かない。それを突破するおもしろい奴が出てくると。
組織になると動きがとれないので、組織をはみ出す木村さんのような方が出てくる。
- ・会場 行くところも名所旧跡も名物もない。バブルが崩壊してから20年も経つ。行政の責任も大きい。
長野県の小布施が突出している。栗の町だった。早稲田大学の先生と10年計画でまちづくりをして観光客が230万人。
林町長さんも、行政がリーダーを捜してくる。いいリーダーがいれば皆さん絶対ついてくる。

それじゃなければ町は変わらない。

まちづくりや地域の活性化は最終的にはどんなことを目的とするのか。

- ・山口 町の活性化にはいろいろな捉え方がある。
私は住んでいる人が誇りを持って活動できる環境を、どうやって整えられるかだと思う。
特色のある産業、活動があり、一定の人間が係わり、子供たちや世間がきちんと評価していることが不可欠だと思う。
国の行政を含めて結節点になっていけば。
- ・宮田 日本の伝統的な考え方は非常に楽天的。自分の死んだ後のことを考えていない。世界中の民族でもめずらしい。
今生きていることを大事にしようというもの。
GNP が中国に抜かれたとってだめだとマスコミは言っているが、人口は 10 倍違う。日本人は自信を持つべきだというのが神主としての意見。
- ・会場 NHK のクローズアップ現代で週末ファーマー200 万人という記事が放送された。
農業人口は毎年 10 万人減っているが、いずれ週末ファーマーが追い越してしまうのではないかと。
自治体はどうやって取り込もうと考えているのか。
農地の集約が行われてきたと思うが週末ファーマーはまるで逆。農地法が対応できるように改正されたということだが、大網も最低 5 反歩ということでもまだ大きい。
農業委員会がそれを下げることができるということで私も傍聴にいったが、農地転用のことを真剣に議論されていたが、農業の活性化は議論されていなかった。
週末ファーマーを取り込んで高齢化した農家を指導者にすれば木村さんの本と同じ。
特急で 43 分。JR と組んで取り組めるのでは。
- ・宮田 全く同じ意見。長南町で農家の資格を取った。
それが大変。200 万人のためにルールを変えれば済むが、お役人は絶対に変えない。
農地法は絶対に変えない。時代が変わっているのにルールを変えないのでおかしくなって耕作放棄地が出てしまう。
- ・大柿 長柄町やいすみ市が一生懸命、農村交流をやっているが、白子町では
- ・宮田 大多喜町の農業委員会が下げようとしているらしい。
- ・山口 1 反まで変えられるのだが働きかけても変えてもらえない。
時代に合わせて適正に変えていかないと。国もしっかり反省しないと。
週末ファーマーの話だと、この近くの大山千枚田での、民主党の石田先生の取り組み、NPO が農地を借りて管理ができる形にもなっている。
そういう取り組みが増えていかないといけないんじゃないか。お金がかからないことだと思うのでうまく接着できれば進むと思うが、日本の農業は水田中心の中で、見ず知らずの都会の人が来て水管理をしてくれなかったらどうしようというネガティブな対応になってしまうが、一緒に考えながら都会の方が農業に触れ合える場を作ることが求められているのではないかと個人的には思うし、そういう方向で進んでいくと思う。
- ・大柿 本当はここでつまみでも出して続けたいところだが、今後もこういったフォーラムをやっていきたい。
明日は朝 9 時から長生農協に、長柄町のグリーンツーリズム、その次に長南町の営農組合に行って農業ビジネスのご指導をしていただく。最後に睦沢町に行ってまちづくりのアドバイスを受けたい。

○閉会挨拶

石井 副理事長